



JINS

Sustainability Report 2023

Yasuda Sequence Tower, 1, Kanda Nishiki-cho 3-chome,
Chiyoda-ku Tokyo, Japan 〒101-0054
JINS HOLDINGS Inc. jinsholdings.com

Table of Contents

・ 会社概要	P03-
・ サステナビリティビジョン	P08-
・ トップメッセージ	P10-
・ マテリアリティ	P12-
・ 2050コミットメントと2030KPI	P13-
・ サステナビリティ推進体制	P15-
・ 外部からの評価	P16-
・ 今年のトピックス	P17-

編集方針

JINSは、サステナビリティビジョンに「アイウェアを通して、未来の景色を変えていく。」を掲げ、すべての人の視線の先に広がる未来の景色を、サステナブルでより良いものへと変えていくべく、様々なミッションに取り組んでいます。JINSでは、私たちの取り組みをよりわかりやすくお伝えするために、2021年からサステナビリティレポートおよびサステナビリティデータブックの発行を開始しました。JINSのサステナビリティに関する考え方や目標、各種取り組みをご紹介しますことで、お客さま、株主の皆さま、お取引先さま、地域社会、従業員などのステークホルダーの皆さまと深いコミュニケーションを図り、私たちのサステナビリティや企業姿勢についてよりご理解いただく目的で編集しています。

レポートの報告対象範囲

対象範囲	株式会社ジンスホールディングスと株式会社ジンスおよび連結子会社を対象範囲としています。 ※ただし、現時点では、対象範囲を株式会社ジンスホールディングスおよび株式会社ジンスとしています
対象期間	年度は、会計年度である9月から翌年8月を対象としています。 例えば、2023年度は、2022年9月から2023年8月を対象としています。個別の対象期間を定義している場合には、各掲載場所にその旨を明示しています。2023年度（2022年9月1日から2023年8月31日）の活動を中心に、それ以前の取り組みや、直近の活動報告も一部含んでいます。
参考ガイドライン	・ 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD） ・ 環境報告ガイドライン（2018年版）
報告サイクル	報告は年次での更新を原則とします。 最新の発行日は次の通りです。 サステナビリティレポート：2024年3月29日（次回2025年3月発行予定） サステナビリティデータブック：2024年3月29日（次回2025年3月発行予定）

WEBサイト

JINSのサステナビリティに関する詳しい情報はこちらからご覧ください。

WEBサイト：<https://jinsholdings.com/jp/ja/sustainability/>

Our Vision

Magnify Life

いつもと世界が違って見える。

JINSは、そんなきっかけを

人々に提供したいと願う。

人々の生き方そのものを豊かに広げ、

これまでにない体験へと導きたい。

だからこそ、私たちはメガネの

その先について考え抜き、

「あたらしい、あたりまえ」を創り、

まだ見ぬ世界を拓いていく。

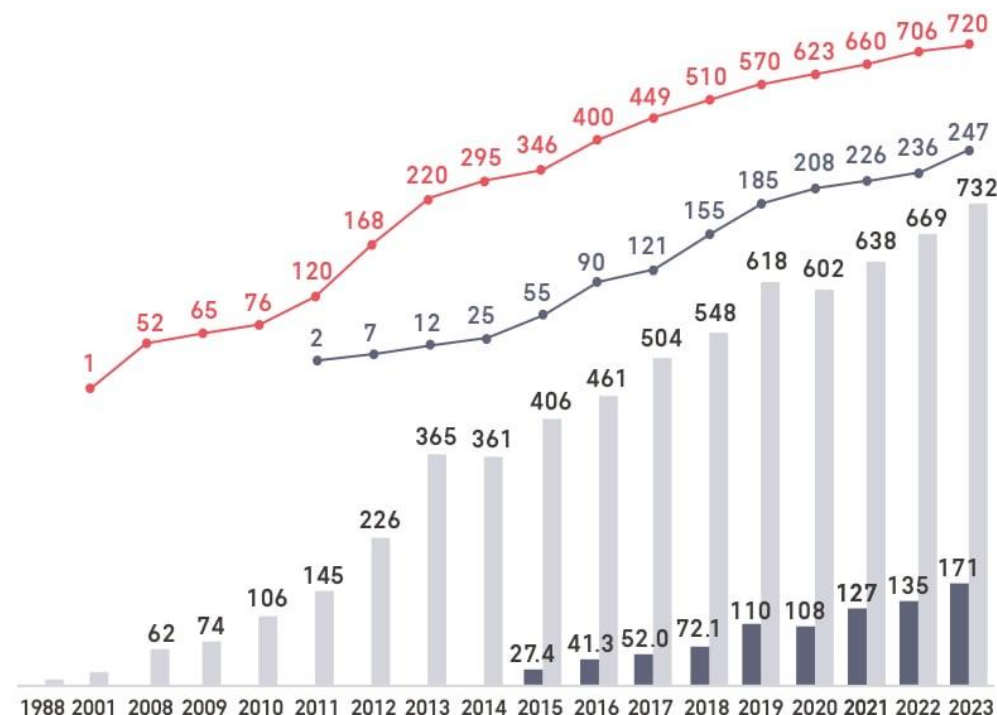
—to Magnify Life



Company Profile

商 号	株式会社 ジンズホールディングス
東京本社	東京都千代田区神田錦町三丁目1番地 安田シーケンスタワー
前橋本社	群馬県前橋市川原町二丁目26番地4
代表者	代表取締役CEO 田中 仁
設 立	1988年7月
資本金	3,202百万円
上場市場 (証券コード)	東京証券取引所 プライム市場 (3046)
事業内容	下記事業を営む子会社等の事業活動の支配及び管理 アイウェアの企画、製造、販売及び輸出入 ウェアラブル 端末およびそれらの関連商品の企画、開発、製造、加工、 販売、賃貸、保守および輸出入 医薬品、およびそれらの 関連商品の販売および輸出入
売上高	73,264百万円 (2023年8月期実績)
従業員数	3,486名[1,628名] ([外書]は準社員等/2023年8月末現在)
グループ 企業	JINS JINSnorma
国内企業	株式会社ヤマトテクニカル
海外企業 (海外JINS事業)	晴姿（上海）企業管理有限公司 吉姿商貿（瀋陽）有限公司 JINS Eyewear US, Inc. 台灣晴姿股份有限公司 JINS Hong Kong Ltd.

- 海外JINS店舗数
- JINS店舗数（FC店・海外点を含む）
- 海外売上高 単位＝億
- 売上高（連結ベース） 単位＝億



Product & Experience

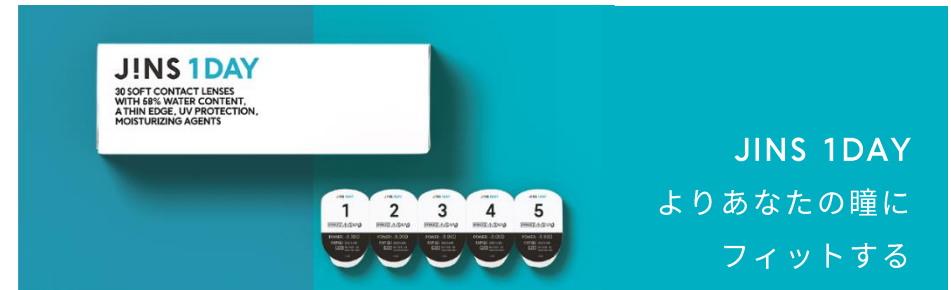
業界の常識を覆すアイウェアと
驚きの体験をすべての人へ。



Airframe

空気のように、気分も軽くなるかけ心地

「メガネは窮屈で重い物」というイメージを覆す、今までにない軽いかけ心地を追求したJINSの代表作。軽さだけでなく、かけ心地・安全性・デザイン・低価格にもこだわり、日本に軽量メガネという新たなジャンルを確立させました。



JINS 1DAY
よりあなたの瞳に
フィットする

JINSでコンタクトを扱ってほしいという、お客さまからの高いニーズを受け、「JINS 1DAY」は誕生しました。瞳にフィットするよう設計し、快適なつけ心地を実現。コンタクトレンズの「あたらしい、あたりまえ」をつくります。

JINS APP

メガネをもっと、楽しく、便利に、お得に

店舗での購入体験をもっと快適に楽しんでもらいたい。そんな想いから様々なサービスを1つのアプリに集約。保証書や度数情報の管理、メガネの試着と似合い度判定、会員限定クーポンなど、今よりもずっと便利に、お得に購入ができるオリジナルアプリです。

JINS APPは1,100万人以上の方にダウンロードして利用いただいております※。度数情報の管理やメガネの似合い度判定などのアプリ内サービスを、より多くの方にご利用いただくことでデータベースをさらに強化。お客さまがもっと快適に楽しめる購入体験を生み出していきます。

※2023年8月時点



JINS SCREEN

Normalという美しさをPCメガネに

ブルーライトに悩む人々のために開発されたJINS SCREEN。フレームはプロダクトデザイナーJasper Morrisonとの協業です。多くの人がデジタルデバイスに接触する時代だからこそ、“すべての人に馴染むデザイン”を追求し、究極の“普通”が完成しました。





高品質、その先へ MORE THAN GOOD

世界品質の薄型非球面レンズ

JINSのメガネは、世界シェアNo.1レンズメーカーのエシロールグループや、大手HOYAグループなどの薄型非球面レンズを標準搭載。球面レンズと比べて歪みが少なく、視界がクリアなうえ、レンズの厚みを気にすることなく好きなデザインのフレームを楽しんでいただけます。



最高の掛け心地と品質を求めて

快適な掛け心地・品質を実現するため、設計へのこだわりのほか、形状や素材も改良を加えて独自に開発。細かなパーツも決して手を抜きません。また、ISOの国際規格、旧JIS規格やJINS独自基準を含め、最大20項目におよぶ検査を行い、「妥協0」の品質を提供します。



適正価格、その先へ MORE THAN FAIR PRICE

SPA方式

JINSは、企画・生産・流通・販売までを自社で一貫して行うSPA方式を採用しています。それにより、中間マージンやブランド料金といった無駄なコストを大幅カット。また、お客様の声を反映した製品づくりが可能となり、高品質なメガネを適正価格でお届けできます。



どんな度数でも、レンズの追加料金 ¥0

多くのメガネブランドでは、度数を強く、レンズを薄くすれば、レンズの代金は上がっていくもの。しかしJINSでは、近視・乱視の強い方でも、どんな度数でも、追加料金はいただきません。



速さ、その先へ MORE THAN FAST

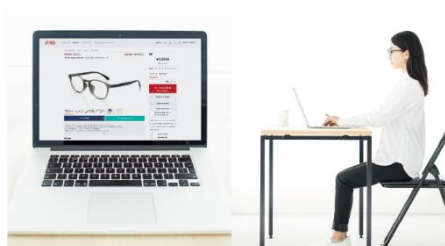
最短30分でお渡し

JINSは店舗オペレーションの効率化により即日お渡しを実現。「メガネは受け取るまでに時間がかかるもの」というイメージを刷新しました。1.メガネを選んで受付 2.視力測定 3.会計の簡単3ステップ。会計後、最短30分でお渡しが可能です。（レンズ在庫がある場合）。



オンラインショップ

オンラインショップは約3,000種類の商品を取りそろえ、送料も無料。最短当日発送ですばやくお届けします。商品は自宅、コンビニに加えJINS店頭でもお受け取り可能。さらに、お客さまの環境に応じた、多彩な決済方法を導入しております。



新しさ、その先へ MORE THAN NEW

産学連携からメガネの可能性を探る

R&D（研究開発）室では、パートナー企業や大学教授、専門医と協力しながら「これからの商品・サービス」を生み出す研究を続けています。産学連携プロジェクトから生まれた代表作、「JINS SCREEN」は、教育現場や医療機関、企業などでも導入が進められています。



新たな素材を探して

ナイロン樹脂「TR-90」との出会いから「Airframe」が生まれたように、新たな機能を持つメガネを生み出すためには新素材の開発が必要不可欠です。JINSはメガネの未来を切り拓く素材を探して、常に情報収集のアンテナを広げています。





Sustainability Vision

Sustainability Vision

アイウエアを通して、 未来の景色を変えていく。

いいアイウエアとは

「未来の景色を変えるもの」でなくてはならない。
それがJINSの信念です。

JINSのつくるアイウエアをかけた方の、その後の人生はもちろんのこと、
この産業に携わるすべての働く人々、究極的にはアイウエアを使わない人々まで。
そのすべての視線の先に広がる未来の景色を、サステナブルでより良いものへと作り変えていく。

そのために様々なミッションに取り組んでいます。

例えば、環境負荷を減らす、循環型アイウエア製造への挑戦。

地域共生と活性化や、子どもたちへの支援。

目の健康を守るための、光の研究とその啓発活動。

視力だけでなく、体の姿勢や心の健康までをケアするセンシングデバイスの製造。

そして、近視を矯正するだけでなく先手を打って「予防する」医療機器の開発まで。

世界人口の1/3が近視といわれ、その社会的コストが増え続けている時代に。

アイウエア産業がイノベーションを起こせば、社会全体の行く末を変えるインパクトがあります。

高品質を、最適な価格で、必要なすべての人のもとに。

その想いで、業界のあたりまえの景色に風穴を開けた創業時から、

JINSはアイウエアを通して社会の先を見つめ、常識を覆しながら、絶えず行動を続けています。

Magnify Life

人類の豊かさが、その先に広がっていると信じて。



TOP Message



アイウエアを通して、 未来の景色を変えていく。

代表取締役
CEO

田中 仁

感染症、気候変動、資源枯渇、人種問題、経済格差。いま、地球上のあらゆる場所では、いくつもの危機にさらされています。それらの課題は、私たち人間に「変われ」というメッセージを投げかけているように思えてなりません。

JINSが掲げる、「Magnify Life(マグニファイ・ライフ)」というビジョン。そこにはすべての人の人生が豊かに広がることを願い、そのきっかけを私たちが提供したいという、強い思いが込められています。このビジョンを本当の意味で叶えるためにも、「JINSにとってのサステナビリティとは?」という問いを、私は常に自分自身に投げ続けてきました。

『アイウエアを通して、未来の景色を変えていく』。これが、このたび私たちJINSが定めたサステナビリティビジョンです。と同時に、JINSにとって最も重要だと考える6つのマテリアリティも設定しました。環境負荷の削減、バリューチェーンに関わるすべての人々の暮らしや人権への配慮まで、そこには様々な項目が掲げられています。

6つのマテリアリティ

- ・環境への配慮
- ・人的資本の最大化と人権の尊重
- ・ヘルスケア・イノベーション
- ・安心の製品とサービス
- ・社会への貢献
- ・健全なガバナンス

社会課題を解決する。それは簡単にこなせることではありませんし、長い時間を必要とするでしょう。けれど、「近視の進行抑制に向けた光の研究」や「ヒトの心と身体を分析する商品の開発」など、私たちはこれまでに何度もアイウエアの常識を覆し、その可能性を広げてきたという自負があります。だからこそ、サステナビリティに向かう姿勢も、従来の考えにとらわれることなく、新鮮な視点をもって、JINSだからこそできる解決の仕方を模索していきたい。アイウエアの可能性を追求し、その価値を世の中に還元していきたい。そう、強く思うのです。

事業活動そのものが、社会の役に立てているのか。商品やサービスが、社会が抱く課題解決に貢献できているのか。常に、その厳しい視線を自らに向けること。JINSがあることでこの世界が少しでも生きやすく、もっと鮮やかな場所になることを願い、次々と「あたらしい、あたりまえ」を創り続けていきたい。

これからのJINSに、ますますご期待ください。

TOP Message

未来の景色を 変えていくために。

ビジネスを通じた社会価値創出へ

JINSのサステナビリティ推進担当役員の田中亮です。JINSとしてのサステナビリティビジョンである「アイウェアを通じて、未来の景色を変えていく。」の実現に向けて、リーダーシップをとり進めてまいります。気候変動などの環境問題、DE&Iやヘルスケアなどの社会課題は、一筋縄で解決できるものではありませんが、JINSとして真摯に向き合い、既存の枠組みにとらわれず、ビジョンと計画を持ち、確実に取り組んでいきます。そして、それらをJINSの中心事業であるアイウェアを起点としたプロダクトやサービス作りを通じて行っていくことが重要であると認識していますので、JINSだからこそできる事業との両輪として、サステナビリティ推進への挑戦を続けていきたいと考えています。

中長期目標とコーポレートガバナンス

JINSでは現在、SDGs（持続可能な開発目標）の達成年である2030年に向けて、2030目標の設定、サステナビリティ推進体制の強化を行っています。2030目標設定に合わせて推進活動におけるロードマップ策定や、社会の大きな変化に対応するために、緊急時や災害時におけるBCP（事業継続計画）も進めています。JINSでは、「アイウェアを通して、未来の景色を変えていく。」というサステナビリティビジョンを定めています。創業時から業界の「あたらしい、あたりまえ」に挑んできたJINSとして、アイウェアを通して社会の先を見つめ、これからも常識を覆しながら絶えず行動を続けていく姿勢を、あらゆるステークホルダーの皆様と共有し、実現に向けてともに歩みを進めていくためです。また、組織が正しい方向へ向かうためのコーポレートガバナンスも重要視しており、「企業の持続的な成長・発展を目指して、より健全かつ効率的な優れた経営が行われるよう、業務執行を適切に監督する仕組み」としてコーポレートガバナンスを定め、あらゆるステークホルダーの信頼を高め企業価値の向上を追求することを目的として、経営体制を強化しその監視機能を充実させるための諸施策を推進していきます。

マテリアリティの特定

JINSでは、サステナビリティのマテリアリティとして「環境への配慮」「健全なガバナンス」「安心の製品とサービス」「人的資本の最大化と人権の尊重」「ヘルスケア・イノベーション」「社会への貢献」の6分野を特定しており、今後注力して戦略的に進めていきます。これらのマテリアリティは、ESG（環境・社会・企業統治）やSDGsなどのグローバルイシューを中心に様々な社会課題を洗い出し、JINSおよびステークホルダーや社会全体にとっての重要性を考慮して策定しました。たとえばマテリアリティの「環境への配慮」では、環境負荷を減らすために、資源循環型社会の実現に向けて、サステナブル素材を使用したアイウェアの製造を進めています。また、アイウェアと関連の深い「ヘルスケア・イノベーション」の領域では、目を守るための光の研究とその啓蒙啓発活動や、視力だけでなく、体の姿勢や心の健康までをケアするセンシングデバイスの製造。そして、近視を矯正するだけでなく先手を打って「予防する」医療機器の開発など、アイウェアを起点にヘルスケア領域での様々なイノベーションづくりに挑戦していきたいと考えています。さらに「人的資本の最大化と人権の尊重」の領域では従業員のDE&Iを進めるため、国籍・人種・民族・社会的身分・宗教・信条・年齢・性別・性自認・性的指向・心身の障害・家族・キャリア・経験・働き方など、個人があたりまえに持つ違いに関わらず、JINSで働く多様な人材が生き生きと働くことのできる環境づくりを進めています。ひとりひとりがその能力や特性を最大限に活かすことで、更なるイノベーションや価値創造につなげていきます。

ステークホルダーの皆様との関わり

JINSは、ステークホルダーの皆様提供できる価値を最大化すべく、事業に取り組んでいます。そのために、皆様からのご期待やご意見にしっかりと耳を傾け、JINSが環境・社会に及ぼす影響をともに考えさせていただき、歩みを進めていくことが重要であると認識しています。また、経営戦略と社会的要請の方向性を合わせた事業そのもので、あらゆるステークホルダーの皆様へ貢献し、信頼関係を構築していきます。今後も「あたらしい、あたりまえ」に挑み、JINSの価値を社会に示せるよう、ステークホルダーの皆様との関わりをより深め、新たな価値の共創を目指すとともに、持続可能で豊かな社会の実現に向けて、たゆまぬ努力を重ねていきます。

取締役副社長
サステナビリティ推進担当役員
田中亮



取締役副社長
サステナビリティ推進
担当役員

田中亮

2050 COMMITMENT

循環をつくれ。
未来、消費をなくせ。

この地球上にあるいくつかの環境問題。その根本には、人間の経済活動があります。ならば、消費というもののあり方に変革を起こせないか？環境問題にこそ、JINSらしい挑戦の姿勢で取り組んでいきたいと考えます。まずは、カーボンニュートラルの実現。グループ内のCO2排出を実質ゼロとするため、再生可能エネルギー比率を100%へ。一方、プロダクトについては、廃棄商品ゼロを推し進めると同時に、100%循環型のアイウェアへとシフト。環境についても「あたらしい、あたりまえ」を生み出すべく、私たちはトライし続けます。

近視をなくす。
目を通じた、
幸福の追求を。

この地球上の近視人口は増加の一途をたどり、2050年には50億人に達すると言われています。近視を、ゼロにすること。それは、長年、近視矯正のアイウェアにたずさわってきた私たちの、責任であり、使命です。近視の抑制や予防にかかわる研究開発に取り組み、近視ゼロに向かうサービスプラットフォームへとビジネスを転換させること。目を通じたWell-Beingを「Well-Seeing」と位置づけ、近視抑制技術の研究や心身の健康をめざすアイウェアの開発だけにとどまらず、優れた「見る」体験の提供など、「目」を通して、世界中の人々に驚きと喜びをお届けします。

企業。地域。地球。
一人ひとり異なる
個性が、それぞれに
輝く場所であれ。

性別、国籍、障害。個々の意思や特性が蔑ろにされることなく、それぞれが自分らしく生きられる、働ける。私たちはこの地球に在籍する一企業として、そういった社会に寄与し続けたいと考えます。そのためにもまず、JINSで働くすべての人の幸福を追求すること。公平な活躍の機会と人権の尊重。ダイバーシティ&インクルージョンの考えが、すみずみまで行き渡る組織をめざします。

善を生む組織であれ。

強固なガバナンスを構築するためには、なによりも正直さ、誠実さが欠かせません。善を生む組織。すなわち、善人が集まり、育ち、そこに報いる組織であること。最新の課題にいち早く対応し、高いリスクマネジメントを担保するためには、なによりその観点が必要だと考えます。多様性に富み、互いを尊重し合う。誰もが本音で話せる、風通しよい環境を構築すること。JINSの、進むべき未来はそこにあります。

2030

2050

2030 GOAL

	KPI項目	2030目標	2023実績
環境への配慮	気候変動への対応	温室効果ガス(CO2)排出の削減 SCOPE1+2 42%削減(2020年比) SCOPE3 25%削減(2022年比)	SCOPE1+2 25%増加(2020年比) SCOPE3 7%削減(2022年比)
		国内ロードサイド・路面店舗の 再生可能エネルギー利用率50%	エネルギー利用量の算定方法を検討中。再生可能エネルギー導入店舗数の状況は以下の通り。 再エネ導入店舗数合計：22店舗(79店舗中) <内訳> ・再エネ電力プラン：2店舗 ・太陽光発電設備(自社所有)：5店舗 ・太陽光発電設備(PPA)：15店舗
	資源循環型社会の実現	アイウエア(樹脂製品)の50%をサステナブル素材に	アイウエア(樹脂製品)の50%をサステナブル素材比率：19%
人的資本の最大化と人権の尊重	従業員のDE&I	女性管理職比率30% 女性店長比率50%	女性管理職比率：15% 女性店長比率：26%
		育児休暇取得率男女ともに100%	育児休暇取得率 男性：35% 女性：100%
	人材開発	人材の国際間移動の推進	人材の国際間移動件数：6件
	サプライチェーンにおける人権尊重	新規サプライヤーと主要サプライヤーへの自社専門部署及び第三者によるモニタリングの徹底(100%)	新規サプライヤーと主要サプライヤーへの自社専門部署及び第三者によるモニタリング率：100%
		サプライチェーンでの重大事故ゼロ	サプライチェーンでの重大事故件数：0件
社会への貢献	目の健康の啓発や優れた見る体験の創造と機会の提供	見る育やアート支援など、人々の見る目を養う活動の継続的な実施	見る育プロジェクト JINS×Tech Kids Schoolを実施
	地域共生社会への貢献	店舗を通じた、地域共生活動の継続的な実施	・高齢や病氣などによりご来店が困難な方にJINSの商品やサービスをご提供するための移動販売車の運営(JINS GO)。 ・地域での“人”と“食”の循環を目指すプロジェクトとしてロースタリー兼コーヒーショップ(ONCA Coffee)を展開。 ・JINS PARKにおいて、夏祭りイベント「PLAY! SUMMER2023」等を開催。

	KPI項目	2030目標	2023実績
ヘルステック・イノベーション	近視進行を予防する技術/商品/サービス開発	バイオレットガラスの開発/普及による近視拡大への歯止め	バイオレットガラス(仮)の検証的臨床試験を実施中。
	イノベーションによる新たな価値創造	新しい価値を提供するアイウェアの開発	社会課題である「睡眠の質低下」解決を目指し、産学連携により研究を支援。(2024年度内に製品化予定)
安心の製品とサービス	徹底した品質管理による高品質な製品の提供	品質管理体制の高度化とモニタリングの実施	不良率が一定以上に達した場合に製品の販売を停止することを定めた、製品の継続販売可否基準を設定。
	顧客価値を高めるサービスの提供	製品・サービスに関するお客様満足度の向上	お客様アンケートの改善等、取り組み方針を検討中。
健全なガバナンス	健全なガバナンス体制	コーポレートガバナンス執行体制の第三者評価(年1回)と課題への迅速な対応	第三者評価に先立ち、まずは自社専門部署による評価と課題の洗い出しを2024年度に実施する方針で準備中。
		第三者による取締役会の実効性評価(年1回)と課題への迅速な対応	第三者による取締役会の実行性評価と、課題に対する改善策の整理を実施。
		独立社外取締役の半数以上の継続	独立社外取締役比率：60%
		役員層の女性・外国籍合計比率25%以上	役員層の女性・外国籍合計比率：18%

2030

2050

Sustainability Management

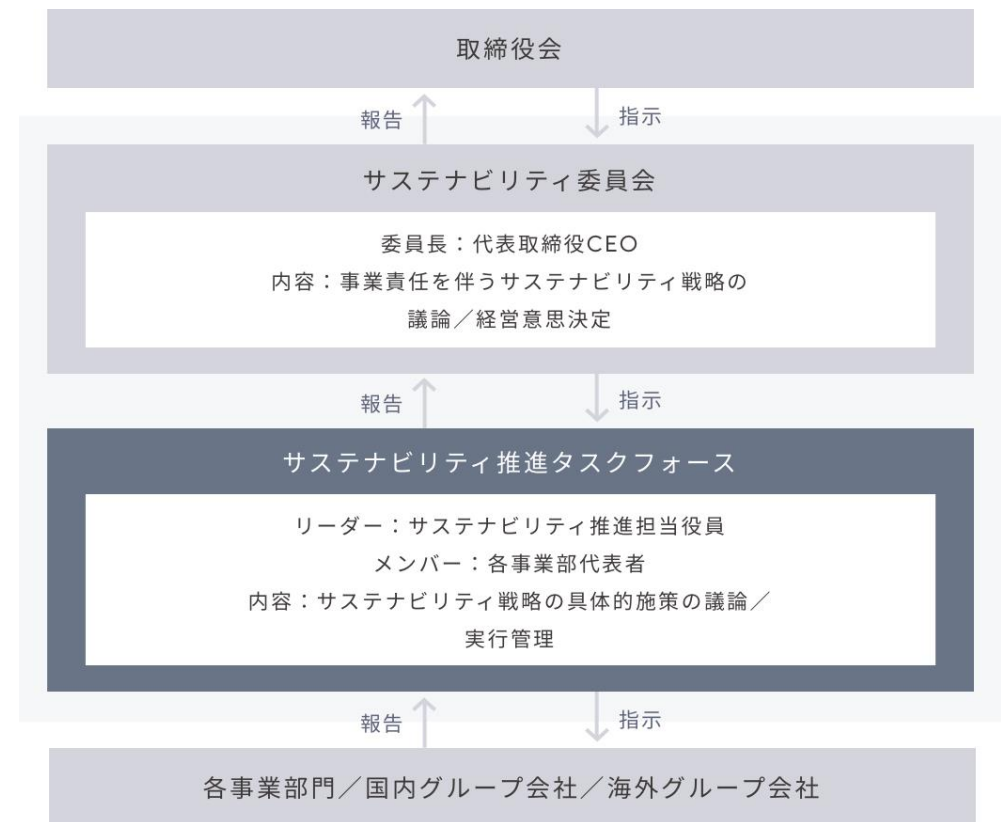
サステナビリティ推進体制

JINSではグループ全体でのサステナビリティ活動を推進し、取り組みへの透明性を高めるため、サステナビリティ推進委員会を設置しています。

「サステナビリティ推進委員会」は代表取締役CEOを委員長とし、原則として年に2回開催しています。同委員会では、サステナビリティに係る全社戦略の決定や2030目標の設定や進捗のモニタリング等を行うと共に、同委員会の下部組織である「サステナビリティ推進タスクフォース」で起案した事項について審議・決定します。会議の過程では、社外有識者で構成された外部アドバイザリーボードにより、タスクフォースの諮問に対する答申やアドバイザリーを適宜仰ぎ、社外からの客観的な視点を経営に反映しています。また、重要事項については取締役会に適宜報告する体制とし、実効性のあるガバナンスを実現しています。

「サステナビリティ推進タスクフォース」は、リーダーをサステナビリティ推進担当役員とし、各事業部からの代表者で構成されます。同タスクフォースではサステナビリティに配慮した中長期的な企業戦略の策定を行うほか、各事業部やグループ各社での施策の実行を管理します。各事業部門ではそれぞれが管理責任を持ち、サステナビリティに係る企業戦略を部門方針や行動計画に落とし込みます。

JINSでは、持続可能な企業成長に向けた経営判断を迅速かつ公正に行い、各部門がサステナビリティへの取り組みを自律的に進めることができる体制を構築しています。



Sustainability Management

外部からの評価



MSCI ESGレーティング

「MSCI ESGレーティング」は、MSCIが企業の環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）におけるリスクマネジメントの程度を分析し、最上位ランクの「AAA」から最下位ランクの「CCC」まで7段階で評価するもので、ESG投資の世界的な評価指標とされています。JINSは、ESGへの取り組みや情報開示が高く評価され、「AA」を獲得しました。



MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数は、日本に上場する大・中・小型株を対象にしたインデックス「MSCIジャパンIMI指数」の構成銘柄のうち、ESG評価に優れた企業を各業種から選定している指数です。



DX認定

DX認定制度とは、「情報処理の促進に関する法律」に基づき、「デジタルガバナンス・コード」に則ってDX実現に向けたビジョンの策定や戦略・体制の整備などDX推進の準備が整っている企業（DX-Ready）を認定する制度です。JINSは2022年4月1日に認定されました。

PRIDE指標

任意団体「work with Pride」によって策定され、職場におけるLGBTQ+などのセクシュアル・マイノリティ（以下、LGBTQ+）への取り組みを評価する指標です。JINSは、性自認及び性的指向等にかかわらず多様な価値観を持った従業員が働きやすく、個々の能力を最大限発揮させられる就業環境を整えていくために「PRIDE指標」を基準に環境整備を推進。2022年時点では「シルバー」に認定。2030年にはPRIDE指標最高位の「ゴールド」を目指します。



D&Iアワード2023

D&Iアワードは、株式会社JobRainbowの主催により、ダイバーシティ&インクルージョンに取り組む企業を認定するためのアワードです。JINSは2023年に「日本国内だけでなく世界的にも高い水準でD&I推進に取り組むD&I先進カンパニーで、D&Iの企業文化の醸成はもちろんのこと、社員一人ひとりがD&I推進を担う個として積極的に活動している。D&Iの理念は、サービスや事業、企業組織のあらゆる側面で反映され、それを今まさに社外にも波及している。」という評価の企業に与えられる最高位の「ベストワークプレイス」ランクに認定されました。

参加しているイニシアチブ



国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクト（United Nations Global Compact）は、国連と民間企業・団体が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブです。JINSは、2022年11月17日に参加企業として登録されました。あわせて、UNGCに署名している日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加入しました。



気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）

TCFDは、G20の要請を受け、金融安定理事会（FSB）により設立されたタスクフォースです。企業などに対して、気候変動リスク及び機会に関する「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の項目について開示することを推奨しています。JINSは、2022年に気候変動への対応のためにシナリオ分析を実施。その結果を踏まえてTCFD提言への賛同を表明するとともに、提言に基づいて事業に影響を及ぼす気候変動のリスクと機会に関する情報を取りまとめた「TCFDレポート」を開示しました。

Topics of 2023



photo by Takumi Ota

01

ベンチャー魂を、取り戻せ。

よりクリエイティブな働き方へ 「壊しながら、つくる」本社移転。

今回の本社移転は、「メガネ販売数では日本一になったものの、まだまだ挑戦者でなければ、この先の成長はない。」こうした危機感を抱いた社長の号令からはじまりました。もう一度挑戦者としての振る舞いを、会社全体で改めて意識するべく、新オフィスは「壊しながら、つくる」をコンセプトに、新進気鋭の建築家・高濱史子氏が担当。オフィスの固定概念や入居ビルの間取りに捉われることなく、各階を各階にクリエイティブな働き方をサポートする仕掛けを実装し、あえてこれまでより築年数が古く、床面積が半分となるオフィスに入居し、社員一人ひとりの工夫が求められる環境としたことで、社員の問題発見能力・想像力・クリエイティビティを高めます。

photo by Takumi Ota



photo by Takumi Ota

オフィスと働き方の概念を 変える“美術館×オフィス” の新空間

新オフィスでは、社員のクリエイティビティを刺激するため、金沢21世紀美術館館長の長谷川祐子氏監修のもと、オフィス内各所へアートを導入しています。5階の執務エリアに導入したのは、室内の空気を清浄化する植物をつかったアート「ファブリカ デラリア」。ガラスケース内の植物が汚染物質を分解・吸収する仕組みで、JINSオフィスには91鉢の熱帯植物が収められ、空気を浄化しながらインスピレーションをもたらす新しい形のアートとして導入しました。環境意識の高いヨーロッパでは、既に店舗などで設置されていますが、アジアではこれが初の導入事例となりました。さらに商談室フロアには、アーティストの創造性とビジネスの中の発想や創造性がクロスする場所として、「美術館×オフィス」をコンセプトにしたアートギャラリーを設置。初回展示として、日本人3名のアーティストの共作による映像インスタレーション『Gravitation』が展示されました。今後も定期的にアートの入れ替えを行っていく予定です。



photo by Takumi Ota

働き方も クリエイティブに。 従業員専用 サウナの導入

9階には「ARNE SAUNA（アーネサウナ）」と名付けた従業員用サウナを設置。1人用とグループ用のサウナ2種、シャワー、水風呂などを完備しました。医師としてサウナを医学的に研究しつつ、サウナ愛好家でもある慶應義塾大学医学部特任助教の加藤容崇氏監修のもと、グループ用サウナの外気浴スペースには、利用者同士で商品などのアイデアを議論したり書き留めたりできるようなホワイトボードも備え付け、社員のクリエイティビティをさらに高める新しい働き方に挑戦しています。

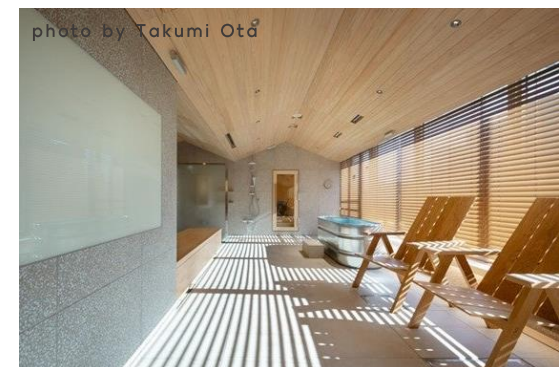


photo by Takumi Ota

カフェを併設し 外へ開かれたオフィスに

1階は「働けるソト」をコンセプトにしたエリアとし、外の光が気持ちよく入り、オフィスでありながら街とのつながりを感じられる空間を設計。そこに、JINSが地域共生事業で展開するコーヒー店「ONCA COFFEE（オンカコーヒー）」をオープンし、JINSと神田の街の接点としてJINS社員はもちろん、誰でも気軽に立ち寄りやすく自然とコミュニケーションが生まれる、そんな場所とすることを目指しています。





02 お客様のもとへ訪れる、新しい地域共生の形。 メガネ移動販売車 「JINS GO」発進



近隣にJINSの店舗がない場合や、高齢や病气などによりご来店が困難な方にJINSの商品やサービスをご提供できないという課題を解決するため、メガネの移動販売車によるサービスを開始。JINSの基本サービスをすべてご提供できるよう改装した車イス昇降機付き専用車両を使用し、お客様に来店いただくのではなく、JINS自らがお客様のもとへ訪問する新しい地域共生の形を実現しました。1号車はマイクロバス型の車両をベースに開発。車内には木材による温かみのあるデザインを採用し、メガネ約200本を陳列できる棚や、お客様が座れるベンチも設けました。視力測定器やレンズ加工機も搭載することで、ご利用いただいたその日のうちにお客様へ商品をお渡しすることを可能にしています。また、有事の際には被災地支援などにも活用可能で、今後は車両を増産してカバー地域の拡大を視野に入れながら、地域との新しい関係構築に取り組んでいきます。

03 地域共生の更なる可能性を、 コーヒー事業に。 ONCA COFFEE & ROASTERY OPEN



JINSはこれまで、多様な人材の活躍機会の創出を推進する「JINS norma」や、地域共生を目指し、ベーカリーカフェ「エブリパン」を併設した複合施設「JINS PARK」など、“人の輪”を作る事業を展開してきました。そして2023年4月には、さらに活動を発展させ、地域での“人”と“食”の循環を目指すロースタリー兼コーヒショップ事業を開始。1号店「ONCA COFFEE&ROASTERY前橋店」を本社敷地内に開業しました。眼鏡の買い方の分かりやすさノウハウを応用し、日替わり提供のドリップコーヒーとカフェラテの2種類に絞って販売しながら、多くのお客様と毎日の接点を持ち、新しい地域との共生の形を広げていきます。

05 地域とつながる／ 環境に配慮した新店舗

JINS山形白山店

地元で愛される地域共生型の店舗を目指し、市内の東北芸術工科大学で教授を務め、山形市のクリエイティブ産業の発展に尽力している建築家の馬場正尊氏と建築家の白石洋子氏に店舗設計を依頼。架構には県産木材を使用し、県の伝統工芸技術である「組木」をモチーフにしています。また、JINS初の試みとして空間演出を産学連携でデザインしており、店内の待合ベンチやグラフィックは同大学の学生を対象に実施したデザインコンペティションの受賞作品を採用しています。ギャラリースペースは今後地域と繋がる空間として活用する予定です。JINSは今後の店舗開発にあたり、より一層、地域のための想い、地域と共生する店舗設計を心掛けています。



JINS富士入山瀬店

JINSとして初めて商品棚の資源循環に挑戦し、廃棄衣類や木材といった原料をアップサイクルした循環型繊維リサイクルボード「PANECO®」を商品棚素材として採用した店舗です。全国の店舗で廃棄予定になっていた約46台の商品棚の木材や衣料品などを原料とし、商品棚6台とカウンターの一部に生まれ変わらせました。また、下がり天井や店内のボックス型のスツールには、地元富士市原産の富士檜を採用。商品棚の引き出しなどには木材ではなく、紙のまち富士市の特産物であるコットンパルプや精製木材パルプでつくられた強化紙を使用しています。店内壁面は地元静岡県を中心に活躍するクリエイターを起用し、富士市にちなんだ空間デザインに。JINSは、環境に配慮した素材などを使用しながら、地域の方にも愛される共生型の店舗設計を進めています。

06

日本初！※好きな時間に待ち時間ゼロで！

PICK UP LOCKER
導入開始

日本初※となるメガネのセルフ受け取り用ロッカー「PICK UP LOCKER」のサービスを開始しました。従来、商品の受け取りの際に標準的な店舗で平日7.6分、休日8.1分ほどお待たせしてしまっていたが、ご自身の都合の良いタイミングで待たずに受け取りたいというニーズに応えるため混雑度の高い店舗へ順次導入することを決定しました。JINS 東京駅グランルーフフロント店を皮切りに今年9月末までに約60店舗での設置を目指します。（※JINS調べ）



いつでも、サウナでも、お風呂でも。

JINSは、常にアイウェアの概念を変える新常識を生み出すことに挑戦し、これまでJINS SCREENやJINS VIOLET+などのイノベーションを生み出してきました。そして今回、約1年半かけて開発に成功したのが「JINS SAUNA」。錆びやひび割れなどが発生するため、一般的にメガネはサウナやお風呂では外すことが推奨されていますが、JINS SAUNAはフレームやレンズに耐熱温度120℃の素材を採用し、レンズにくもり止め加工を施すことで、サウナでもクリアな視界をキープしたほか、濡れても錆びにくい仕様を実現。また、サウナ利用時限定ではなく「サ陸両用」という新しい発想で開発し、快適なかげ心地やファッション性に富んだデザインやカラーリングを追求しています。これにより、サウナ愛用者の方だけでなく、介護従事者による入浴介助などのシーンでもご愛用いただいています。

07

「サ陸両用」という新常識の提案

JINS SAUNA
発売開始

08

真のグローバルブランドをめざして。

業界最高水準で どこよりも働きやすい 職場環境へ

新卒店舗正社員の基本給と、年間休暇休日数を改定

JINSでは「Magnify Life（マグニファイ ライフ）」というビジョンの実現のために、顧客体験の要である店舗において、質の高いサービスを持続的に提供し世界に通用する競争力を高めると共に、働く従業員にとっても最高の職場環境を整えることが重要と考えています。これまで、店舗従業員を支える様々な取り組みを展開してきましたが、2023年9月からはさらに、店舗正社員の月額基本給を15,000円（約7%）増やし月額支給額250,000円～（10月支給分より）※1に、年間の休暇休日数を7日増やし114日に改定しました。これにより、店舗で勤務する2024年度入社の新卒店舗社員における基本給と年間の休暇休日数は、アイウェア業界でも最高水準※2レベルとなりました。

※1：月額支給額は諸手当などを含めます。

※2：JINS調べ。2023年5月末時点、アイウェア大手14社の公開求人情報を調査

D&Iアワード2022 最高位ランク認定

ダイバーシティ&インクルージョン（以下D&I）に取り組む企業を認定・表彰する「D&Iアワード2022」（主催：株式会社JobRainbow）において、JINSは最高位ランクの「ベストワークプレイス」に認定されました。「D&Iアワード」は、「D&Iに取り組む企業の後押し」「D&Iのあり方のアップデート」「D&I推進の担い手を拡大」の3つを目的としたアワードで、JINSは2050年に向けたサステナビリティ目標のひとつに「企業。地域。地球。一人ひとり異なる個性が、それぞれに輝く場所であれ。」を掲げ、2021年度に「アドバンス」に認定。以後も、新たな取り組みや改善を続け、2022年度は全ての項目で点数が向上し、最高位ランクの「ベストワークプレイス」に認定されました。最高位ランクの「ベストワークプレイス」は、「日本国内だけでなく世界的にも高い水準でD&I推進に取り組むD&I先進カンパニーで、D&Iの企業文化の醸成はもちろんのこと、社員一人ひとりがD&I推進を担う個として積極的に活動している。」という評価の企業に与えられるランクです。



D&I AWARD
BEST WORKPLACE
for diversity & inclusion **2022**

MSCI ESG RATINGS



CCC	B	BB	BBB	A	AA	AAA
-----	---	----	-----	---	----	-----

世界の企業を対象にESGへの取り組みや情報開示の観点で格付けする「MSCI ESGレーティング」において、JINSとして初の「AA」評価を獲得しました。前回（2021年4月公表）の「B」評価から、今回（2023年3月公表）は一気に4段階の格上げとなります。この度の格付けでは、セキュリティポリシーおよびプライバシーポリシー、サプライチェーンの温室効果ガス排出量（Scope3）など、JINSの重点領域として掲げている「サプライチェーンの労働環境整備」、「安心の製品とサービス」、「環境への配慮」に関する情報開示が高く評価されました。

09

前回発表から4段階の大幅格上げ。

MSCI ESGレーティング JINS史上初の「AA」獲得

10



持続可能な成長に向け、
グローバルなリーダーシップを。

国連グローバル・ コンパクト署名

JINSは、国連と民間企業・団体が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティイニシアチブ「国連グローバル・コンパクト（United Nations Global Compact、以下UNGC）」に署名し、2022年11月17日付で参加企業として登録されました。あわせて、UNGCに署名している日本企業などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加入しました。UNGCは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みです。UNGCに署名する企業・団体は、UNGCが掲げる、人権、労働、環境、腐敗防止の4分野に関わる10の原則を遵守し、実践することが求められます。JINSは、サステナビリティビジョン「アイウエアを通して、未来の景色を変えていく。」のもと、社会を取り巻くさまざまな課題に対し、中心事業であるアイウエアを起点とした課題解決に取り組んでおり、今回の署名でより一層活動を強化していきます。

JINS SUSTAINABLE PRODUCTS 2023

6 Lineup 38 SKU



JINS READING



Airframe Basic Slim



JINS×SESAME STREET



JINS HOME



Basic Bold



Patricia Urquiola

JINS 2030目標

アイウェア（樹脂製品）の50%をサステナブル素材に

達成率：
2023年8月時点 **19%**



サステナブル
代表素材

G850

例：JINS HOME

非可食の作物であるヒマ（トウゴマ）種子から得られるひまし油を含んだアルケマ社の「Rilsan® Clear G850 Rnew®」。1年以上にわたる実用化検証を経てサステナブル製品が長らく課題としていた美観と強度のトレードオフを克服し、発色の美しさと耐久性・柔軟性を兼ね備えた素材を実現しました。